今日のイラスト 318　「 イラストでたどる萩往還８　瀧口家屋敷 」　　古谷眞之助

イラストでたどる萩往還 08　瀧口家屋敷

唐樋札場
瀧口家屋敷
萩
山口
英雲荘
（三田尻御茶屋）
防府

文・イラスト＝古谷眞之助

萩藩には「宰判」と呼ばれる18の行政区分があり、明木も含めた萩市域は當島宰判と呼ばれていた。この屋敷の当主瀧口吉良は、當島宰判の民政部門トップの大庄屋を務め、維新後は村長、県議、衆議院議員を歴任して、明木のみならず山口県にも多大の功績を残した。また日本で二番目となる村立図書館を明木に設立した人物としても有名である。

瀧口家からわずかの所に一里塚がある。そこは赤間関街道との分岐点となっていて、南西に進めば絵堂、秋吉経由で吉田に至り、そこからは山陽道に合流して赤間関へと行き着く。一方、南東にそのまま進めば萩往還第二の難所、約3キロのキツイ上りの続く「一升谷」が控えている。

萩藩には４支藩と 18 の「宰判」と呼ばれる行政区があった。明木村付近は「當島宰判」と呼ばれ、これには現在の萩市付近も含まれていた。宰判には代官が配置されていたが、民生部門のトップとして藩令の伝達、年貢割当、訴訟の調停を担ったのが大庄屋であり、各村の庄屋のさらに上の家格で、大変な「顔役」だった。場合によっては名字帯刀も許されていたというから、平成の大合併前の市長クラスと言っても、当たらずとも遠からじ、だろう。瀧口家は代々大庄屋を務めた家柄である。もともと萩藩は 120 万石の雄藩からわずかに防長二州に押し込められたわけで、石高 369,411 石３斗１升５合の割には家臣の数が多過ぎて移封の際にはすべてを抱えきれず、その一部が止む無く帰農し、村の中心人物になることが多かった、それが引いては幕末の挙国一致体制を容易にした、という説をどこかで読んだ気がする。となれば、萩藩は藩校以外にも、多くの郷校、私塾、寺子屋があって教育レベルが高かったことは、その一つの裏付けでもあるように思う。ともあれ、今も萩往還沿いに残る瀧口家の屋敷は頑丈な石垣の上に立ち、四方を土塀に囲まれて周囲を睥睨する豪邸で、さすがに「大庄屋」と頷けるもの。幕末の当主・瀧口吉良は慶應義塾で福沢諭吉に学び、帰村してからは村長、県議会議長、国会議員を務めている。その彼の功績の一つが「我が国初の村立図書館」設立だと学んだ。しかし、どうやら我が国初というのは誤りらしく、「2番目の村立図書館」「村立図書館として建てられた中では現存する最古の図書館」という風に今では訂正されている。ふと思い立って 2007 年から家内と二人、萩往還を６回に分けて踏破した記録「夫婦で歩く萩往還」を書き上げた 2009 年当時はまだ旧図書館が元の場所に建っていて、本を寄贈した際にあれこれと話した女性司書の顔を今でも覚えている。思えば、このウォークが萩往還のガイドを始める直接のきっかけとなったのだった。因みに裁判所の語源は、萩藩の「宰判」から来たものと言われている。（2019.12.1　記 ）